



馬と医療の意外な関係



新年明けましておめでとうございます。2026年の干支は「午(うま, 馬)」です。馬は、勢い・活力・前進を象徴します。古来、馬は戦や交通の要であり、人の移動と発展を支えた動物でした。そのため、馬年は「動きが出て物事が進展する年」と言われます。

そして「馬」と医療の意外な関係をご存知でしょうか?医療の歴史において、馬は人体の医学研究・治療に重要な役割を果たしてきました。破傷風抗毒素血清は、馬から作られました。20世紀初頭、破傷風は致命的な病でしたが、馬に弱毒化した毒素を投与して抗体を作り、その血清を精製という手法で治療が確立しました。そして、ジフテリア抗毒素も同様です。日本では北里柴三郎が確立し、馬は人を救った「無言の医療者」と言われます。

現代でも、「馬のサラブレッド」は再生医療で活躍しています。競走馬の腱損傷治療の研究は、ヒトの腱再生・PRP(多血小板血漿)療法の発展にもつながりました。このように、馬は、ただ速く走るだけではなく、人とともに前へ進む仲間として、長い歴史とともに進んできました。ひとりでは越えられない長い道を、人と馬は歩調を合わせながら進んできたのです。そして、馬は常に前を向いて進む生き物です。踏み出すとき、馬は後ろを振り返りません。医療も同じです。過去の反省は生かしながらも、視線は前へ。私たちは、今年も一歩ずつ確かな歩みを続けていきます。

今年も、病院の理念である「安心と信頼、そして笑顔」を胸に、質の高い医療で地域と社会に貢献できる病院、患者さんが安心して選んでもらえる病院を目指していきたいと思います。そして私たち職員も「ここで働けてよかった」と思える病院を作っていきます。

明るく、楽しく、元気よく、どうぞ本年もよろしくお願ひいたします。



病院長 土屋 弘行

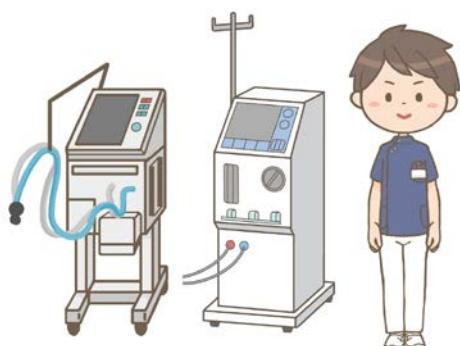
当院の臨床工学技士のご紹介

当院の臨床工学技士は、循環・呼吸・代謝に関わる治療業務に加え、医療機器の導入・保守・運用を担い、まさに“縁の下の力持ち”として医療現場を支えています。手術領域においては、心臓カテーテル検査やペースメーカー植込み術、さらに心臓外科手術では人工心肺装置の操作を担当し、生命維持に直結する高度な医療技術を駆使しています。

日常診療では、透析治療における透析用水の品質管理、透析膜・回路の準備、治療機器の設定・点検を行い、看護師と連携しながら患者様へ安全な治療を提供しています。また、透析室内での機器トラブルへの迅速な対応や計画的な機器メンテナンス、血漿交換などの特殊治療、さらには ICU における周術期患者様への血液浄化治療など、業務は多岐にわたり、治療プロセス全体を専門的に支えています。

近年、医療機器や情報技術は急速に進歩しており、臨床と工学の両面から対応できる専門人材が強く求められています。医療の電子化が進むなか、臨床工学技士が関わる分野でも革新が進み、ペースメーカー患者のフォローアップは一部条件を除き、ご自宅から遠隔で受診できる環境が整いつつあります。これにより、患者様の通院負担の軽減や異常早期検知が可能となるなど、多くのメリットが生まれています。

大学病院では医師による研究成果が多数発表されていますが、当院の臨床工学技士もまた地道な研究活動を積み重ねてきました。その積み重ねが、今日のペースメーカー遠隔診療を含む先進的治療の実現に寄与していると考えています。臨床工学技士は、機器管理・水質管理・安全管理の専門家として高度医療の安全性と質を支える中心的な存在であり、私たちは今後も医療技術の発展に応じて研鑽を続け、患者様に最適な医療を提供できるよう努めてまいります。



臨床工学科主任 石原 武



フレイルと臓器不全の関係性と予防の重要性

近年、メディアなどで「フレイル」という言葉を目にする機会が増えています。フレイルは、英語の「Frailty（フレイルティ）」に由来し、「虚弱」「老衰」「脆弱性」などを意味します。つまり、フレイルとは、加齢に伴い身体的・精神的・社会的な脆弱性が増し、健康障害や要介護状態に陥りやすくなる状態を指します。筋力の低下、疲労感、活動量の減少、体重減少などが特徴で、健康と要介護の中間に位置する段階です。

日本における65歳以上の高齢者のうち、フレイルは8.7%、プレフレイルは40.8%、健康な高齢者は50.5%とされており、高齢者の約半数がフレイルまたはその予備段階に該当します。フレイルの評価にはいくつかの基準がありますが、最も広く用いられているのが Fried の基準です。以下の5項目のうち、3項目以上に該当するとフレイル、1~2項目の場合はプレフレイルと判断されます。

- ①意図しない年間4.5kg以上または5%以上の体重減少
- ②週に3~4日以上「何をするのも面倒」と感じる疲労感
- ③歩行速度の低下
- ④握力の低下
- ⑤身体活動量の低下

高齢化が進む現代社会において、フレイルは「臓器不全」と密接に関連する重要な健康課題です。臓器不全とは、心臓・腎臓・肝臓・肺などの主要臓器が機能不全に陥り、生命維持が困難になる状態を指します。フレイル状態の高齢者は、免疫力や代謝機能が低下しており、感染症や慢性疾患の悪化によって臓器不全を引き起こしやすくなります。一方、臓器不全による入院や治療の過程で身体機能が低下し、フレイルが進行することもあります。特に心不全や腎不全はフレイルとの関連が強く、治療方針を決定する際にはフレイルの評価が重要視されています。

しかし、フレイルは適切な介入や支援によって改善可能な状態でもあります。予防的な介入としては、栄養改善（たんぱく質・ビタミンの摂取）、運動療法（筋力維持・有酸素運動）、社会参加（地域活動や家族との交流）、そして医師・看護師・理学療法士・栄養士などによる多職種連携が挙げられます。これらの取り組みは、フレイルの進行を防ぐだけでなく、臓器不全の予防・管理にもつながります。

フレイルと臓器不全は、単なる加齢の結果ではなく、予防と介入によって改善可能な医療課題です。高齢者の生活の質を守るために、両者を包括的に捉えたケアが不可欠です。

呼吸器内科医長 須藤 成人





笑顔で過ごす毎日のために 人間ドック

忙しい方でも気軽にチェックできる半日コースです

生活習慣病の早期発見や、がん年齢にかかるすべての方に最適な検査を行います

基本A コース

胃部検査 **胃X線検査（バリウム）**
税込 **47,300 円**

基本B コース

胃部検査 **経鼻内視鏡** ★
税込 **55,000 円**

基本コースの内容はこれら

① 問診・診察

② 身体測定

身長・体重・体脂肪・腹囲・視力

③ 眼底・眼圧

④ 聴力検査

⑤ 肺機能検査

⑥ 心電図検査



⑦ 胸部レントゲン

⑧ 腹部超音波検査

⑨ 上部消化管検査

胃X線検査または経鼻内視鏡検査

⑩ 血液検査

腎機能・肝機能・血糖

血液一般・腫瘍マーカーなど

⑪ 尿検査・検便

健康医学センターよりピチ情報

当院の人間ドックでは、経鼻内視鏡を用いた早期がんの発見に力を入れています。

この度、最新の内視鏡システム「FUJIFILM ELUXEO 8000」を導入し、より精度の高い診断が可能になりました。

細い経鼻内視鏡を使用することで、口からの検査よりも反射が少なく楽に受けられます。

さらに、内視鏡治療の進歩により、早期発見できれば治癒を目指せる時代になりました。

早期発見こそが健康維持の鍵。ぜひ一度、人間ドックを受診し、大切な健康を守る第一歩を踏み出しませんか？ご予約・お問い合わせをお待ちしております。

人間ドックは完全予約制です

栄共済 人間ドック



【ご予約・お問合せ】健康医学センター ☎045-895-8370 (平日 14:00~16:00)



本紙に関するご意見ご感想がありましたらお聞かせください。

〒247-8581 横浜市栄区桂町132番地 横浜栄共済病院 まちあい室係

電話 045-891-2171(代) FAX 045-895-8351

当院の診療案内はホームページ(QRコードより)でご確認ください。



病院敷地内は
全面禁煙です

ご協力をお願いいたします